加古川市文化財調査報告 21

加古川市埋蔵文化財調査集報
Ⅲ

平成 19 年 3 月

加古川市教育委員会

加古川市文化財調査報告 21

加古川市埋蔵文化財集報
Ⅲ

平成 19 年 3 月

加古川市教育委員会

序　　文

加古川市は豊かな自然に恵まれるとともに、播磨臨海工業地域の一員としても発展しています。市域には、約620箇所もの埋蔵文化財が存在しており、当市の長い歴史を今に伝えています。

平成15年から平成17年の間に、市内各地で開発との調整をはかるため、試掘・確認調査が実施されました。本書は、国庫補助を受けて実施された「市内遺跡発掘調査事業」の成果をまとめた概要報告書です。

この報告書が、当市の歴史を理解する上で一助となれば幸いに思います。

最後に、それぞれの発掘調査に際して、ご指導・ご協力をいただきました兵庫県教育委員会・加古川市文化財審議委員会・地元の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

加古川市教育長

山　本　　勝

例　言

1. 本報告書は、加古川市教育委員会が平成 15 年度から平成 17 年度まで実施した、試掘・確認調査の概要をまとめた報告書である。調査は国庫補助事業として実施した。

2. 調査組織は以下のとおりである。

   調査主体者　加古川市教育長　山本 勝

   調査担当者　加古川市教育委員会 文化財調査研究センター 西川英樹

   調査作業員　采野尚子・南良子・南悦美・小野安夫

   遺物整理員　蛭田朱美・加藤朱見

3. 本報告書の編集は西川英樹が行った。

4. 本報告書における土層の色調は『新版 標準土色帖 1991 年版』を参考にした。

5. 本書に掲載した図面・写真・遺物等は加古川総合文化センター収蔵庫に保管されている。

目　次

本文目次

調査地一覧表……1

調査地位置図……3

1.　尾上構居跡……5

2.　宗佐構居跡……7

3.　尾上遺跡……9

4.　溝之口遺跡……11

5.　今福遺跡……13

6.　溝之口遺跡……15

7.　尾上構居跡……17

8.　溝之口遺跡……19

9.　石守構居跡……21

10　溝之口遺跡……23

写真図版

写真図版１　尾上構居跡第１トレンチ

写真図版１　尾上構居跡第４トレンチ

写真図版２　宗佐構居跡

写真図版２　尾上遺跡第１トレンチ

写真図版３　尾上遺跡第２トレンチ

写真図版３　尾上遺跡第３トレンチ

写真図版４　尾上遺跡第４トレンチ

写真図版４　尾上遺跡第５トレンチ

写真図版５　尾上遺跡第６トレンチ

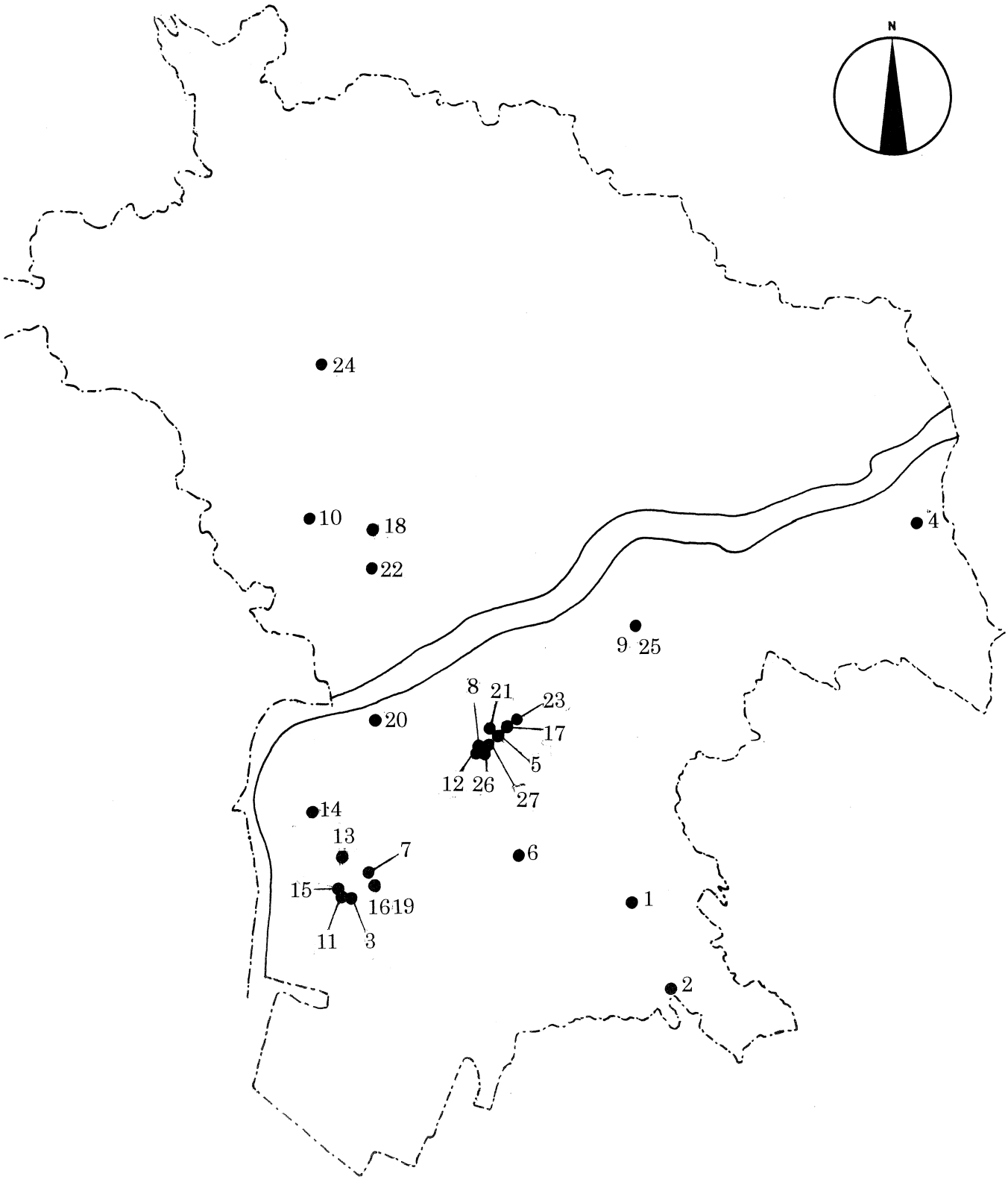
写真図版５　尾上遺跡第７トレンチ

写真図版６　尾上遺跡第８トレンチ
写真図版６　溝之口遺跡遺構完掘状況
写真図版７　今福遺跡
写真図版７　溝之口遺跡遺構完掘状況
写真図版８　尾上構居跡
写真図版８　溝之口遺跡柱穴
写真図版９　石守構居跡遺構検出状況
写真図版９　石守構居跡遺構完掘状況
写真図版１０　溝之口遺跡遺構完掘状況

調査地一覧表

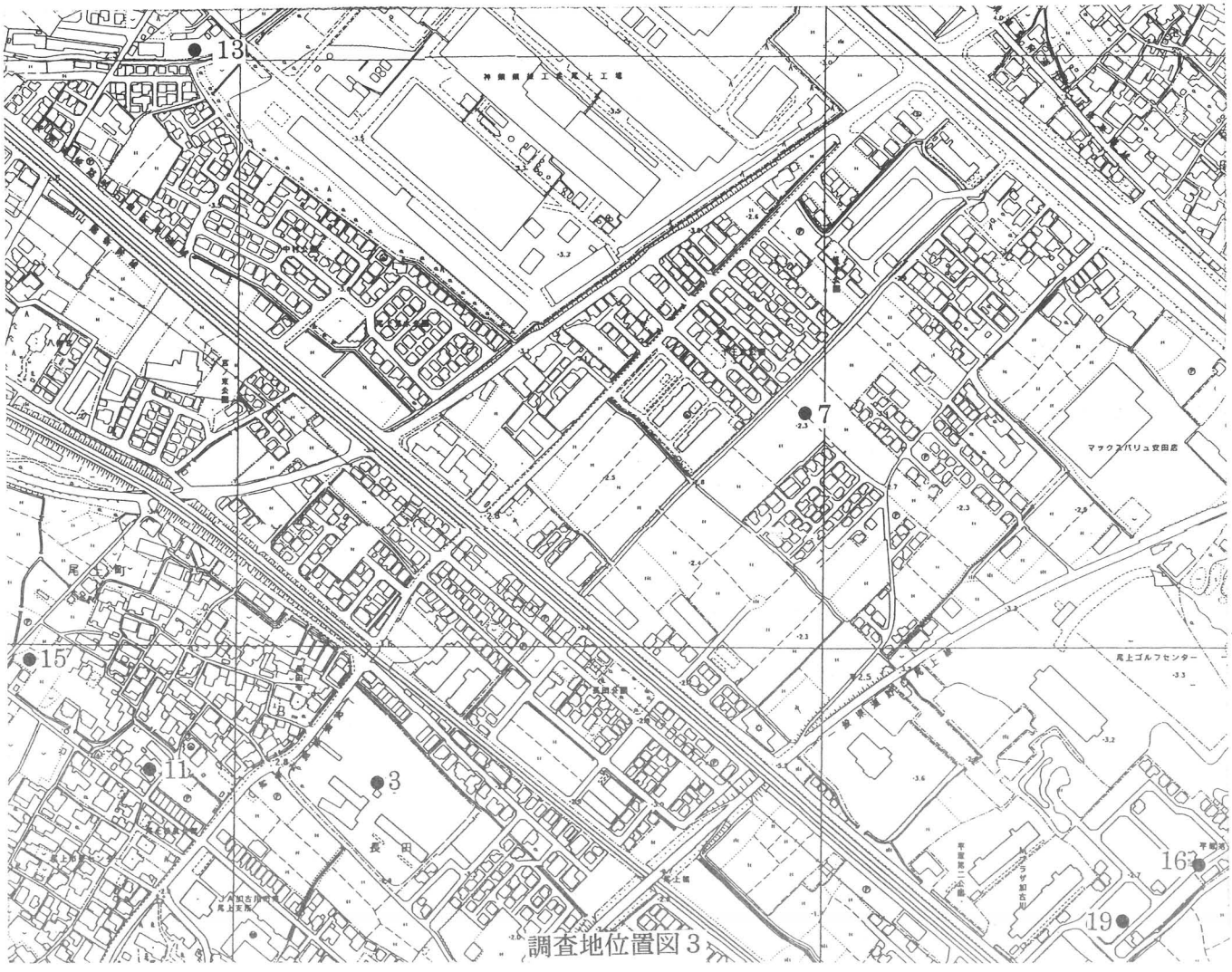
番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因	調査結果
1	東加古川駅北側地区試掘調査	平岡町新在家1670-1他	平成15年9月3日～10月2日	220㎡	区画整理	
2	古代山陽道	平岡町高畑1-1他	平成15年10月15日～10月22日	236㎡	老人ホーム建設	土師器
3	尾上構居跡	尾上町長田173他	平成16年1月20日～1月26日	174㎡	分譲住宅建設	土師器 須恵器 瓦
4	宗佐構居跡	八幡町宗佐183-2	平成16年10月18日～10月21日	20㎡	個人住宅	
5	溝之口遺跡	加古川町溝之口361-1	平成16年3月15日～18日	43㎡	個人住宅	弥生土器 土師器 須恵器 木器
6	古大内遺跡	野口町古大内380-2、378-3	平成16年11月4日	10㎡	個人住宅	
7	尾上遺跡	尾上町安田574番地	平成16年11月10日～16日	100㎡	分譲住宅	
8	溝之口遺跡	加古川町溝之口30-4	平成16年12月21日～27日	13㎡	個人住宅	土壙・ピット 弥生土器 土師器 須恵器
9	石守構居跡	神野町石守910-2	平成16年12月4日	10㎡	個人住宅	
10	西村遺跡	西神吉町中西333	平成17年2月22日～2月28日	5㎡	個人住宅	
11	尾上構居跡	尾上町長田422	平成17年3月3日～10日	10㎡	個人住宅	土壙 土師器 須恵器 木片
12	溝之口遺跡	加古川町溝之口54番5	平成17年4月6日	4㎡	個人住宅	溝・ピット 弥生土器 土師器
13	今福遺跡	加古川市尾上町今福352-3、353-1	平成17年4月4日～4月5日	20㎡	分譲住宅	

14	稲屋構居跡	加古川町稲屋591-3	平成17年5月9日	6㎡	個人住宅	土壙 磁器・瓦
15	尾上構居跡	加古川市尾上町長田331-1	平成17年6月29日～6月30日	8㎡	個人住宅	
16	浜の宮遺跡	加古川市尾上町口里495-4、495-50	平成17年7月8日	9㎡	個人住宅	
17	溝之口遺跡	加古川町美乃利484-5他	平成17年8月25日	4㎡	個人住宅	柱穴 土師器 須恵器
18	神吉城跡	東神吉町神吉1337-3	平成17年9月22日～9月23日	7㎡	個人住宅	
19	浜の宮遺跡	尾上町口里495-67、68	平成17年9月30日～10月2日	4㎡	個人住宅	
20	加古川城跡	加古川町本町308-11、12	平成17年10月17日	4㎡	個人住宅	
21	溝之口遺跡	加古川町溝之口182-1	平成17年10月19日	4㎡	個人住宅	
22	砂部遺跡	東神吉町神吉197-5	平成17年12月21日	4㎡	個人住宅	
23	美乃利遺跡	加古川町美乃利550	平成17年11月17日	4㎡	個人住宅	
24	観音寺城跡	志方町志方町720	平成18年2月7日～2月9日	10㎡	庫裏建設	土壙・ピット 陶磁器・瓦 須恵器
25	石守構居跡	神野町石守931-1、931-3	平成18年2月10日～2月11日	4㎡	個人住宅	溝 土師器 須恵器
26	溝之口遺跡	加古川町溝之口41-2、4	平成18年2月28日～3月2日	4㎡	個人住宅	溝 弥生土器 土師器 須恵器
27	溝之口遺跡	加古川町溝之口50-13、17	平成18年3月2日～3月4日	6㎡	個人住宅	竪穴状遺構 弥生土器 土師器 須恵器 炭化木材



調査位置図１

調査地位置図２



調査地位置図３

尾上構居跡

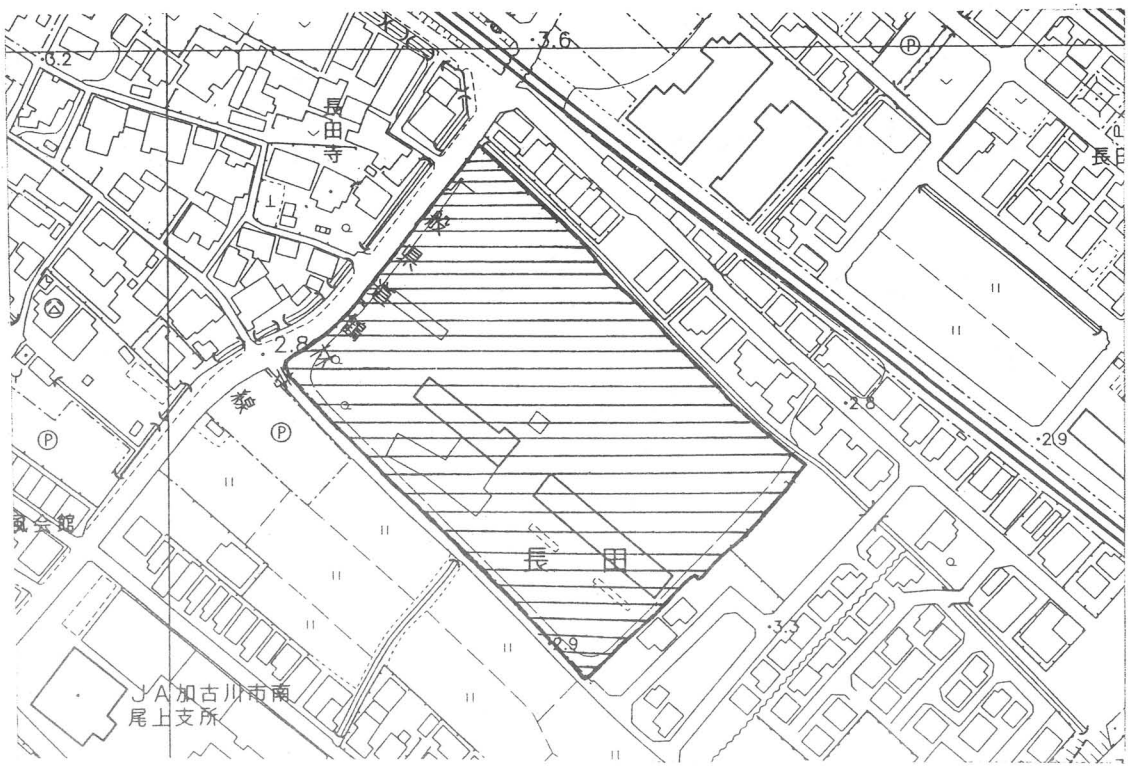
調 査 地　尾上町長田１７３他

調査原因　分譲住宅建設

調査期間　平成１６年1月２０日～１月２６日

調査概要　　尾上構居跡は尾上町長田の長田寺付近が遺構と伝えられ、東西約１８０m、南北約１９０mが想定範囲となっている。城は微高地上に営まれたと考えられている。想定範囲の北側および東側には、現在も水路が残っており、これが掘跡と推測されている。城主としては天正頃三木別所方として羽柴秀吉と戦った加古瀧十郎や尾上丹波守などが知られている。

今回の発掘調査は東側の武田薬品工業の敷地が売却され、分譲住宅が建設されることとなったため、事前に範囲確認調査を実施した。調査区は北側から第１トレンチ、第２トレンチ、第３トレンチ、第４トレンチとなっている。第１トレンチは長さ２.６m×　２０mで５２㎡、第２トレンチは２m×１０mで２０㎡、第３トレンチは３m×４mで１２㎡、第４トレンチは３m×３０mで９０㎡、合計の調査面積は１７４

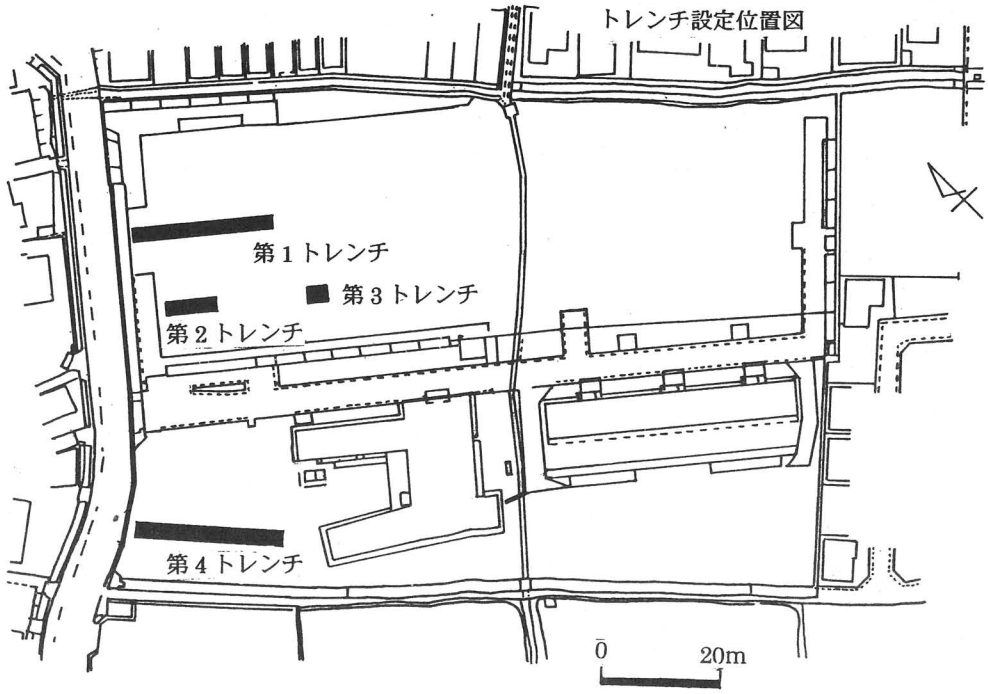


㎡である。

基本層序は、第１トレンチでは、第１層現代盛土層、第２層旧耕作土層、第３層青灰色砂層、第４層灰色粘質土層、第５層褐色砂層、第６層青灰色砂層、第７層黄褐色砂層となっていた。第２トレンチおよび第３トレンチでは第１層現代盛土層、第２層青灰色砂層となっていた。第４トレンチは 第１層現代盛土層、第２層旧耕作土層、第３層淡黄色砂質土層、第４層青灰色砂層、第５層褐色～灰色粘質土層、第６層青灰色砂層、第７層黄褐色砂層となっていた。

第１トレンチ４層および第４トレンチ５層は粘質土層が堆積し、布目瓦片や須恵器片などが少量出土した。遺物は摩滅しており、すべて細片であった。遺構はまったく検出されなかった。遺物は微高地からの流れこみによるものと思われる。これらの層より下層では遺物は出土しなかった。また、第２トレンチおよび第３トレンチでは盛土層が２．１ｍと厚く、それより下は青灰色砂層が堆積するのみであった。ここからは遺構・遺物ともにまったく検出されなかった。

今回の調査では、尾上構居跡の実態を掴むまでには至らなかった。調査地は想定範囲の東端付近であるが、遺構は調査地より西側のに広がるのではないかと思われる。また、奈良時代の須恵器片などが層中より出土しており、今後構居跡以外の遺構の存在にも注意を要する結果となった。



宗佐構居跡

調 査 地　加古川市八幡町宗佐１８３－２

調査原因　個人住宅建設

調査期間　平成１６年１０月１８日～平成１６年１０月２１日

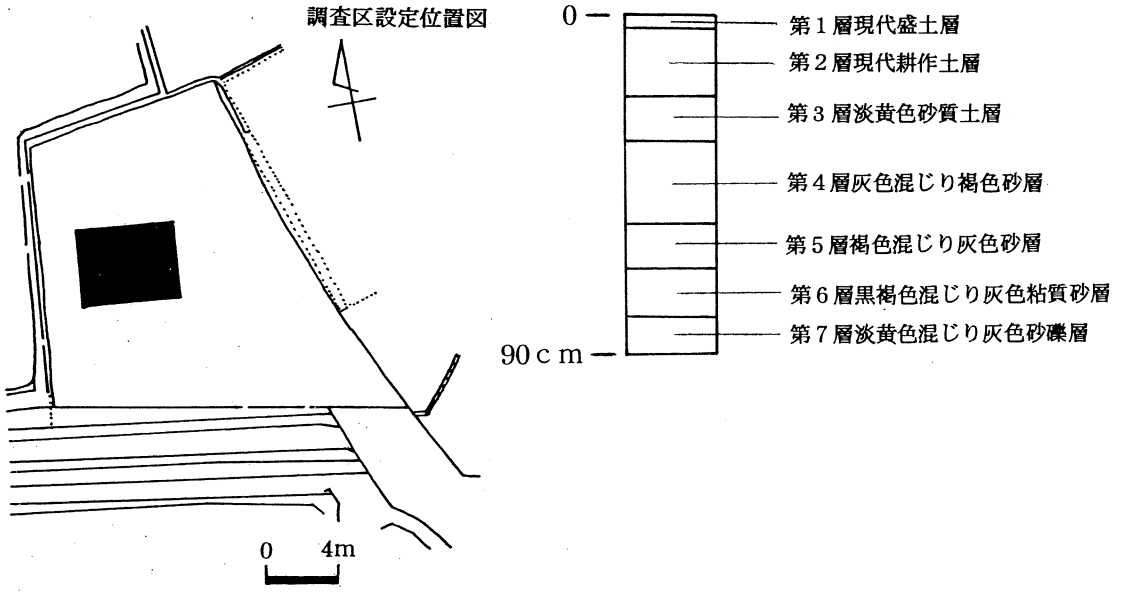
調査概要　　宗佐構居跡は室町時代の城館跡である。城主は『播諸城交替連綿記』では「佐用修理判官刑部少輔教政」らの名前を伝えている。『播州古城蹟集録』では城の規模を「長五十間横三十間」としている。『播州古城記』は「領主は上原兵庫頭天正の頃別所長治の幕下也」と伝える。城ノ内の字名が残っている。

現在、宗佐構居跡の遺跡範囲は、住宅が立ち並んでいる。この遺跡について『兵庫県の中世城館・荘園遺跡』昭和５７年 兵庫県教育委員会では「土取りによって遺構は完全破壊」と記述しているが、市教委としては、今回が初めての調査であったため、個人住宅建設に伴う小規模な開発行為にともなう調査ではあったが、現状の確認を行うための確認調査を実施した。

調査は４ｍ×５ｍ、２０㎡の調査区を１箇所設定して行った。基本層序は第１層現代盛土層、第２層旧耕作土層、第３層淡黄色砂質土層、第４層灰色混じり褐色砂層、第５層褐色混じり灰色砂層、第６層褐色混じり灰色粘質砂層、第７層淡黄色混じり灰色砂礫層となっていた。

旧耕作土層以下の第３層から第７層までは砂層～砂礫層が何層にもわたって厚く堆積するのみであり、遺構・遺物はまったく確認されなかった。

調査地点は、宗佐構居跡の範囲でも西側端の一段低くなった場所であり、現在は造成されているが、もともとは水田であった所である。付近にも砂子田などの字名が残り、河川の痕跡をしめすような字が多く残っている。この場所においても河川の活動による堆積層が形成されていたと考えられる。



尾上遺跡

調 査 地　加古川市尾上町安田５７４他

調査原因　分譲住宅建設

調査期間　平成１６年１１月１０日～平成１６年１１月１６日

調査概要　　尾上町安田に所在する尾上遺跡は、弥生時代から古墳時代の遺物散布地である。調査地の現状は水田で、この場所に分譲住宅が建設されることとなったため、事前に確認調査を実施することとした。トレンチは、合計８箇所設定した。調査面積は１００㎡である。

調査は８箇所のトレンチを設定して実施した。トレンチの規模は２．５ｍ×５ｍで、１２．５㎡、合計で１００㎡である。

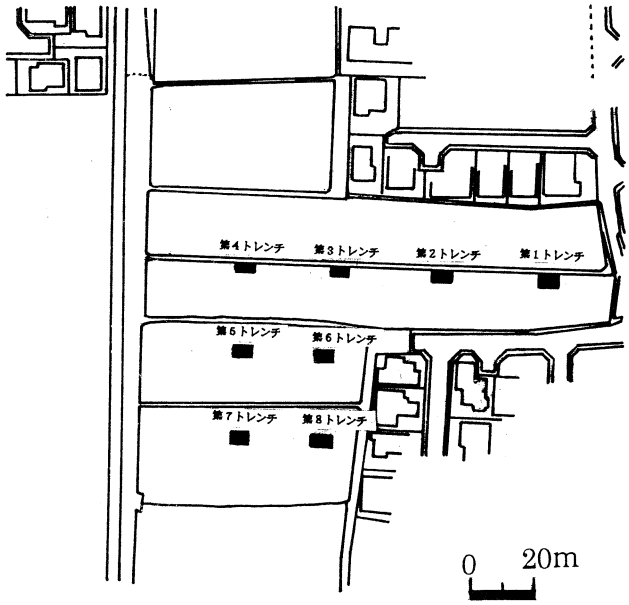
基本層序は第１トレンチでは、第１層現代耕作土層、第２層淡黄色混じり灰色砂質土層、第３層灰色粘土層、第４層橙色混じり暗灰色粘土層、第５層橙色混じり青灰色粘質砂層となっていた。この地層は第１トレンチから第６トレンチまでの各トレンチ

においては同様の堆積が続いていた。

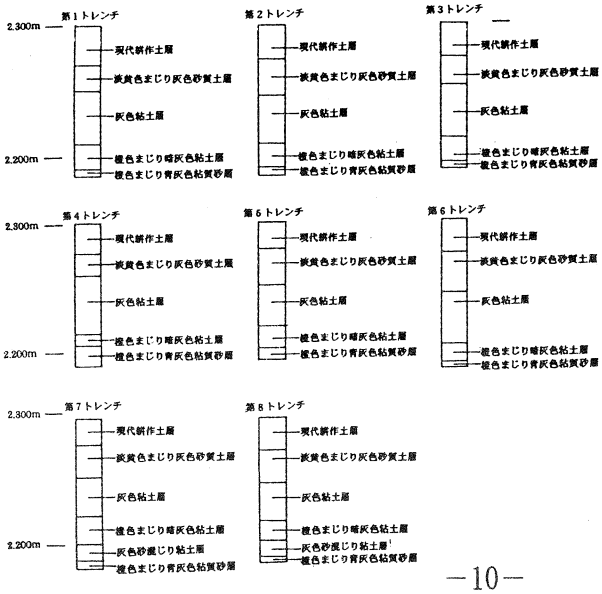
第７トレンチ、第８トレンチは第１層現代耕作土層、第２層淡黄色混じり灰色砂質土層、第３層灰色粘土層、第４層橙色混じり暗灰色粘土層、第５層灰色砂混じり粘土層、第６層橙色混じり青灰色粘質砂層となっていた。南側のトレンチでは、粘土層の堆積が厚くなる傾向があった。

第１トレンチから第８トレンチの第３層、第４層では、低地性の灰色～暗灰色粘土層が緻密に堆積しており、そのため、調査区内は水はけが悪く、晴天時でも絶えずぬかるんでいるような状態であった。遺物は表層に須恵器の細片が少量混じる程度であった。調査区ないにおいて第５層までを精査したが、遺構などはまったく検出されなかった。

トレンチ設定位置図



土層断面模式図



溝之口遺跡

調 査 地　加古川市加古川町溝之口３０－４

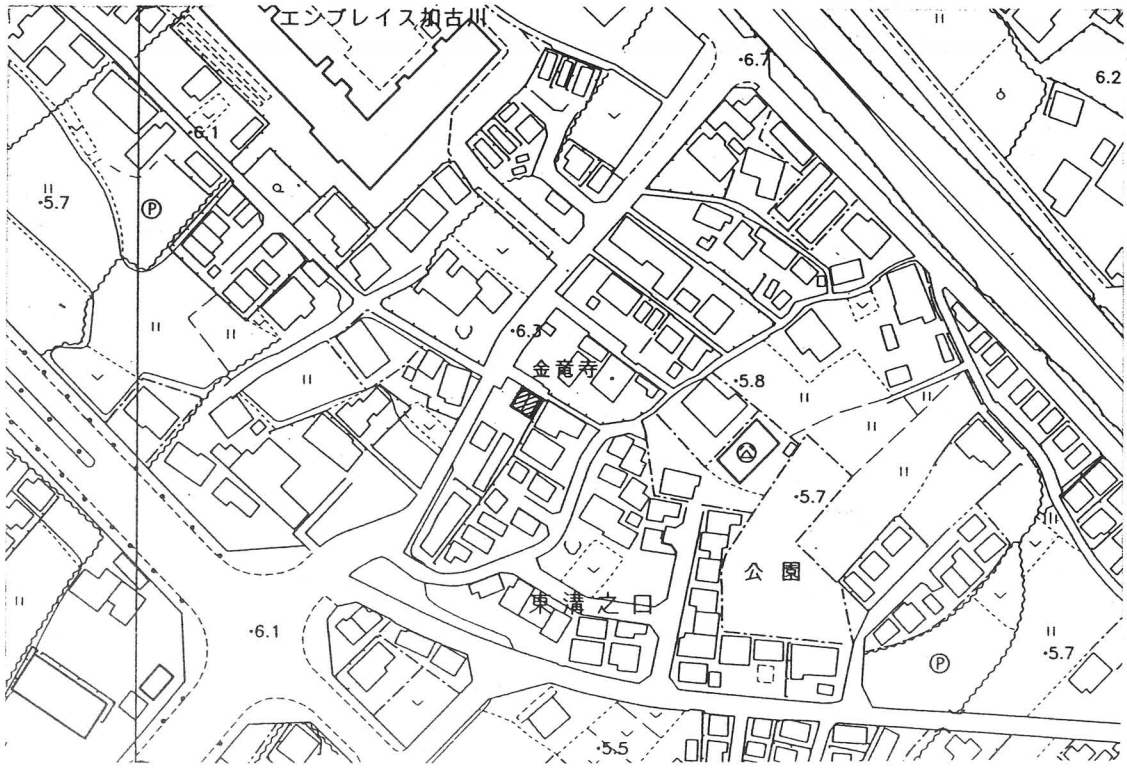
調査原因　個人住宅建設

調査期間　平成１６年１２月２１日～平成１６年１２月２７日

調査概要　　加古川町溝之口の溝之口遺跡は弥生時代から平安時代の集落跡である。加古川バイパス建設時に発見されて以来、開発に伴う調査が繰り返されてきた。この遺跡の範囲内において、個人住宅の建設工事が予定された。加古川市教育委員会は開発者と協議を行い、開発地内において遺構・遺物の有無を確認する必要から確認調査を実施することとした。

開発地内にトレンチを１箇所設定して調査を行った。トレンチの規模は２．８ｍ×４．５ｍで、調査面積は約１３㎡である。

基本層序は第１層現代盛土層、第２層旧耕作土層、第３層灰色粘質砂層、第４層暗灰色粘質土層、第５層褐色粘質土層、第６層灰褐色砂礫層、第７層灰色砂質土層、第



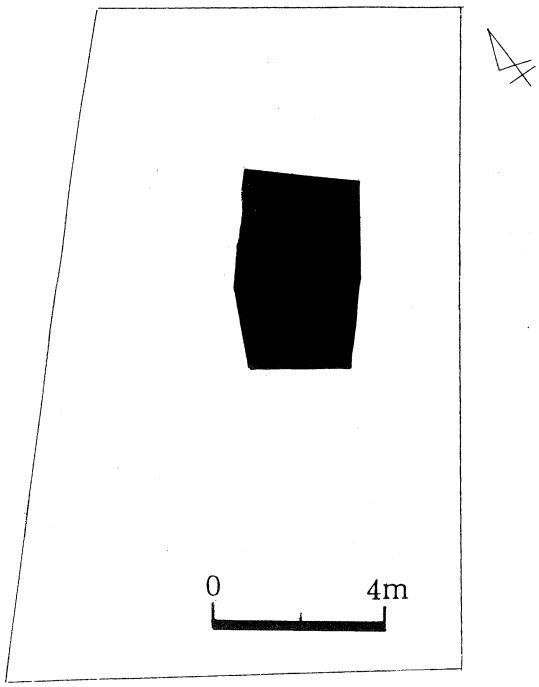
８層灰色砂礫層となっていた。表土から８０～９０ｃｍ程度掘削すると、遺構検出面である第５層を検出した。遺構はこの層の上面において検出した。落ち込みが１およびピットが７基である。

落ち込みは、トレンチ北端部から検出された。検出長約２．５ｍ、検出最大幅約約１ｍ、深さ約２０ｃｍで、全体の形状は不明である。埋土は灰褐色粘質土で、古墳時代の甕１個体が出土した。

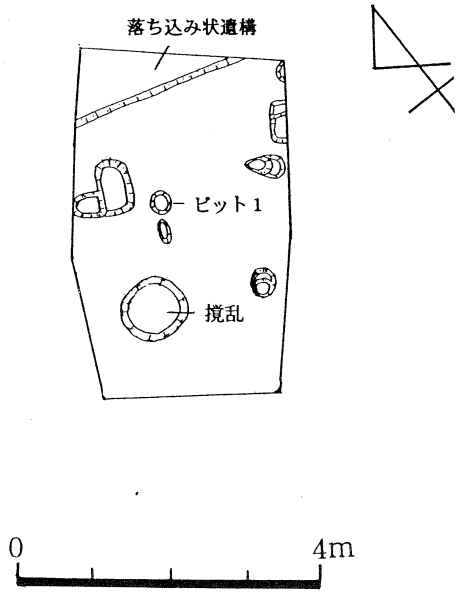
ピット１は平面形が円形となり、直径約２５ｃｍ、深さ約３２ｃｍで埋土は暗褐色粘質土である。弥生時代後期の土器片数点が出土した。これ以外の遺構からは遺物は出土しなかった。

確認調査の結果、遺構・遺物が確認されたが、表土下８０ｃｍ～９０ｃｍであるため、住宅開発による遺構面の破壊はないものと判断した。

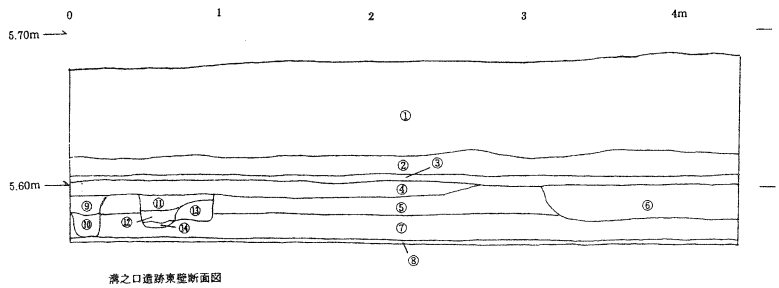
調査区設定位置図



遺構平面図



調査区東壁断面図



溝之口遺跡東壁断面図

①現代盛土層
②旧耕作土層
③灰色粘質砂層
④暗灰色粘質土層
⑤褐色粘質土層
⑥灰褐色砂礫層
⑦灰色砂質土層
⑧灰色砂礫層
⑨暗褐色粘質砂
⑩暗褐色粘土
⑪灰褐色粘質土
⑫暗褐色粘質土
⑬灰色粘質土
⑭褐色粘質土

今福遺跡

調 査 地 尾上町今福３５２-３

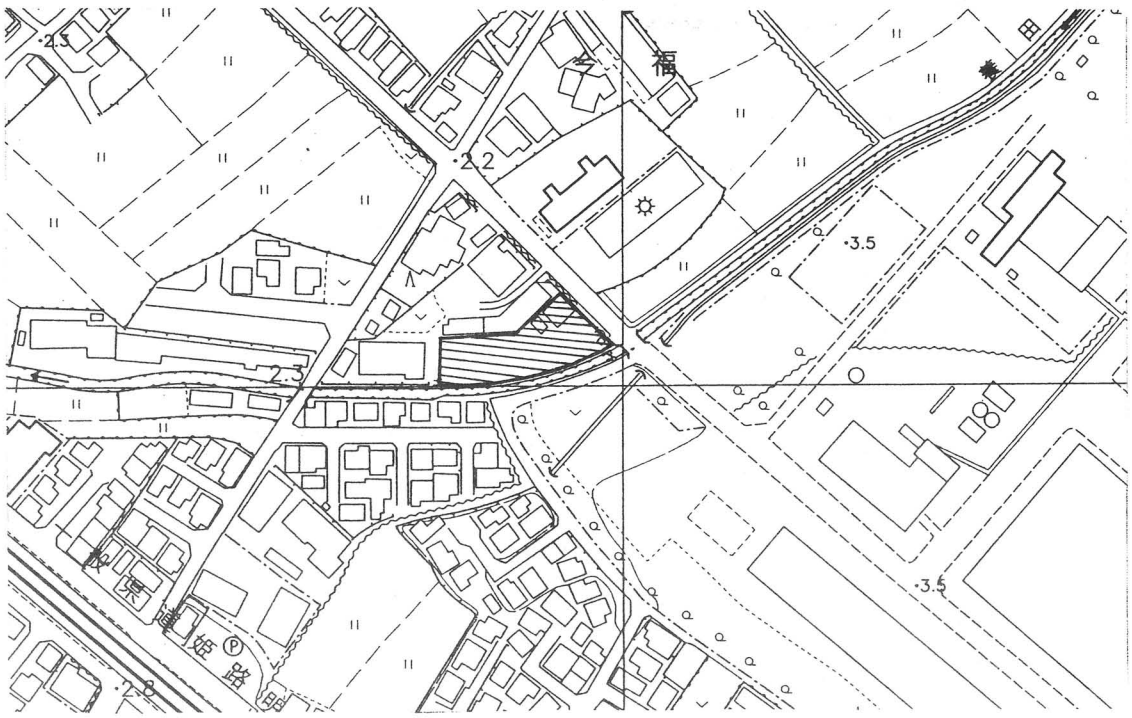
調査原因 分譲住宅

調査期間 平成１７年４月４日から４月５日

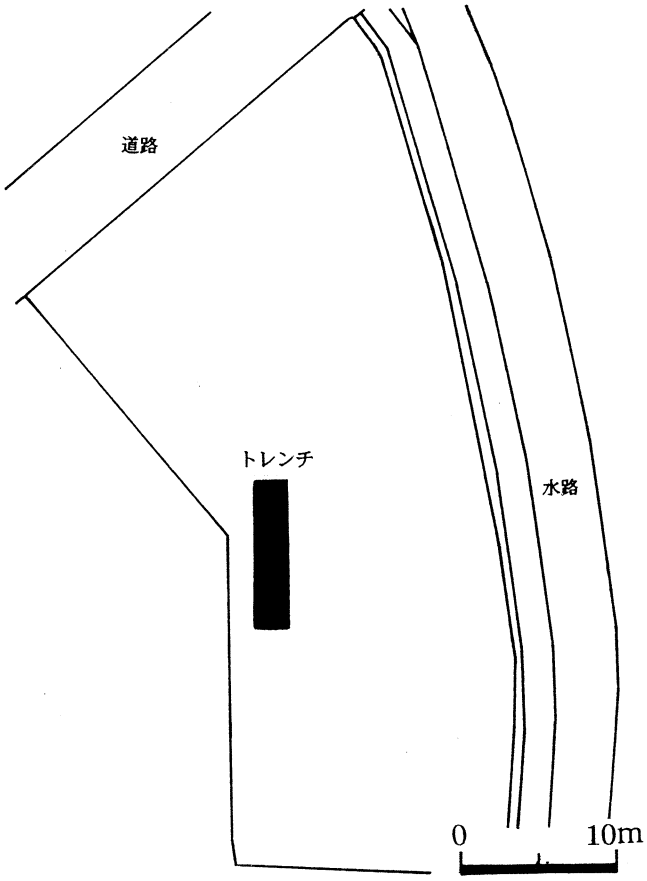
調査概要 今福遺跡は養田川周辺に設定された遺物散布地である。東側には、同じような遺物散布地である尾上遺跡も存在する。今回の調査は、尾上町今福３５２－３工場跡地において分譲住宅の建設が予定され、住宅建設に先立ち道路の建設が行われる事となったため、事前に確認調査を実施することとした。

開発地内において、調査区を１箇所設定して調査を行った。規模は、２m×１０mで、面積は２０㎡である。基本層序は第１層現代盛土層、第２層現代耕作土層、第３層淡黄色混じり灰色シルト質細砂層、第４層灰色シルト質細砂層、第５層灰色細砂混じりシルト層(層厚１～１０cm、亜円礫含む)となっていた。

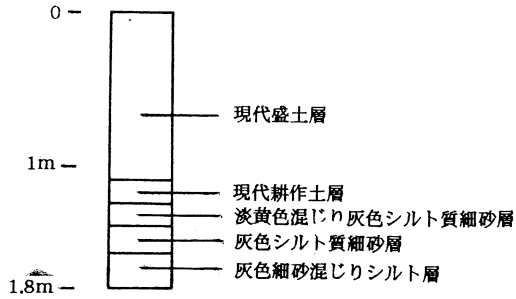
３から５層は灰色の粘質土層で低地性の堆積層である。これらの層はいずれも灰白色の炭酸鉄の斑文が形成されていた。各層を平面的に調査したが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



調査区設定位置図



土層断面模式図



溝之口遺跡

調 査 地　加古川市加古川町溝之口５４番５

調査原因　個人住宅建設

調査期間　平成１７年４月６日

調査面積　４㎡

調査概要

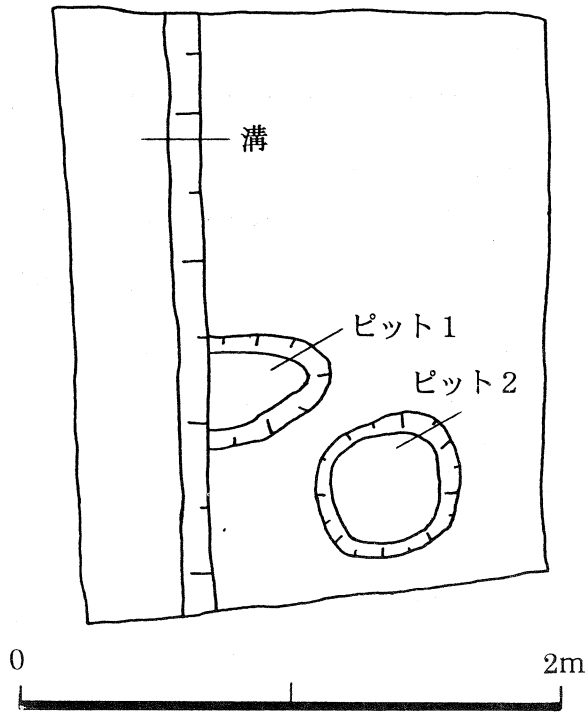
加古川市加古川町溝之口の水田において、個人住宅１戸の新築工事が予定された。この場所が周知の埋蔵文化財包蔵地である溝之口遺跡の範囲内であったため、加古川市教育委員会は開発業者と協議を行った。その結果、開発地内において遺構・遺物の有無を確認する必要があるとの認識から確認調査を実施することとなった。

開発敷地内に調査区を１箇所設定して調査を行った。調査区の規模は２ｍ×２ｍで４㎡である。基本層序は第１層現代耕作土層、第２層黄色粘質土層、第３層灰色砂質土層、第４層灰褐色砂質土層、第５層灰褐色粘質土層となっていた。

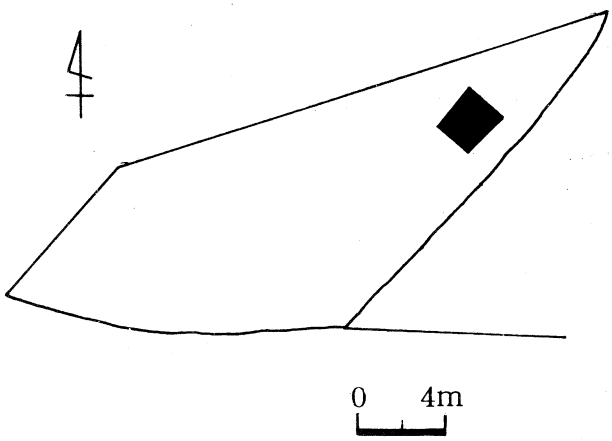
遺構は第５層上面において検出した。検出された遺構は溝１条、ピット２個である。　溝は検出長約２ｍ、幅約５０ｃｍ、深さ約２２ｃｍで、埋土は暗灰色砂質土である。遺物は弥生時代中期の甕や壷片、奈良時代甕などが検出された。ピット１は平面楕円形を呈し、西側を溝によって破壊されている。検出長約４６ｃｍ×幅約４３ｃｍ、深さ約２７ｃｍで埋土は暗灰色砂質土である。埋土中からが出土した。ピット２は、平面隅丸方形で、約５６ｃｍ×５０ｃｍ、深さ約２６ｃｍで、埋土は暗灰色砂質土である。埋土からは弥生時代中期甕片が出土した。

確認調査の結果、遺構・遺物の存在が確認された。開発は１戸建て個人住宅で、基礎工事による破壊は遺構面までは達しない事がわかったため、開発が行われる事となった。

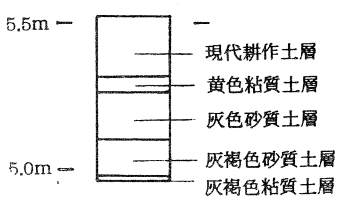
遺構平面図



調査区設定位置図



土層断面模式図



尾上構居跡

調 査 地 加古川市尾上町３３１－１

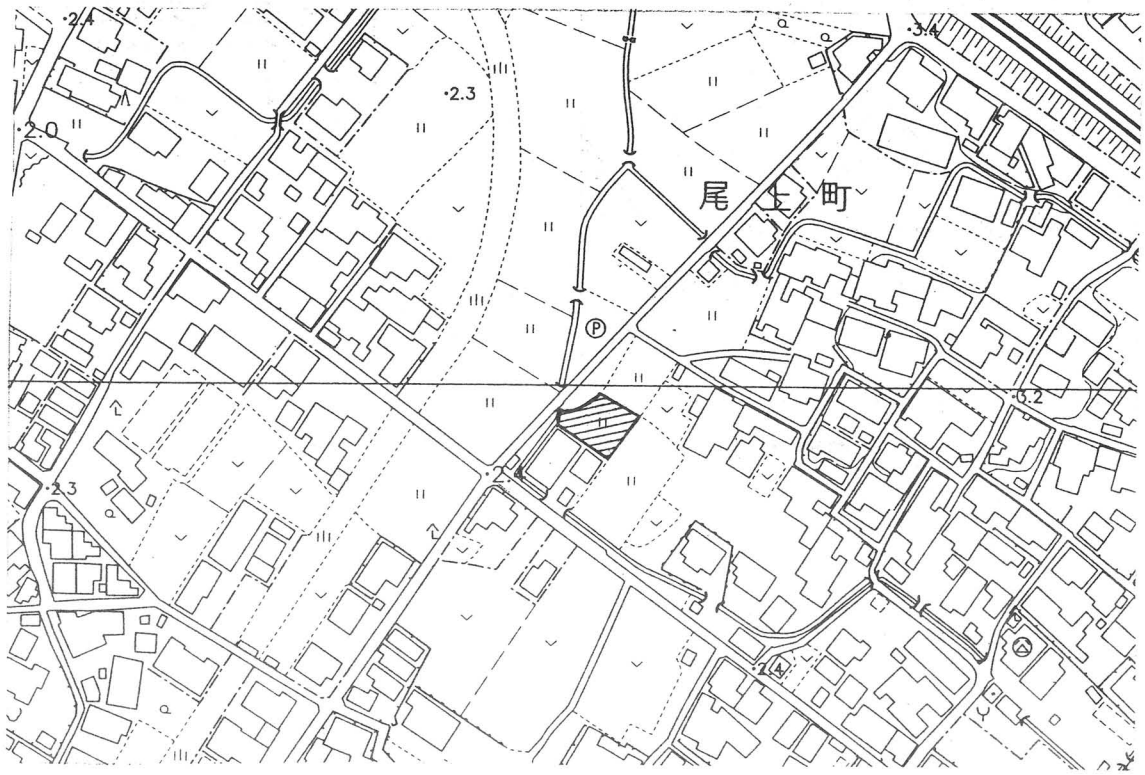
調査原因 個人住宅

調査期間 平成１７年6月２９日・３０日

調査概要　尾上構居跡は尾上町長田の長田寺付近が遺構と伝えられ、東西約１８０m、南北約１９０mが想定範囲となっている。城は微高地上に営まれたと考えられている。想定範囲の北側および東側には、現在も水路が残っており、これが掘跡と推測されている。城主としては天正頃三木別所方として羽柴秀吉と戦った加古瀧十郎や尾上丹波守などが知られている。

今回の調査は、尾上町長田の水田において、個人住宅の建設が予定されたため、遺構・遺物の有無を確認するための確認調査を実施した。

開発地内に調査区を１箇所設定して調査を実施した。調査区の規模は２m×４mで、８㎡である。基本層序は、第１層現代耕作土層、第２層青灰色粘質砂層、第３層明青灰色細砂層、第４層明青灰色粗砂層、第５層明青灰色砂礫層となって

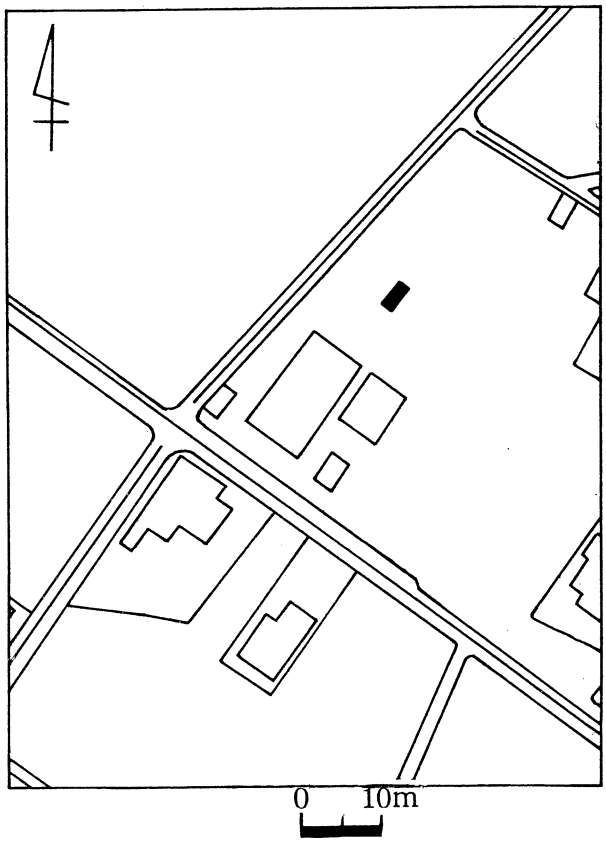


いた。

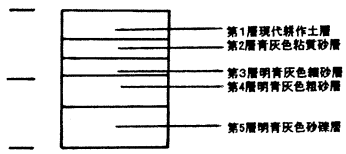
表土から１ｍまで掘削しても耕作土から下は砂層～砂礫層の堆積が続いており、遺物の出土もなく埋蔵文化財は確認されなかった。

尾上構居跡の西側想定範囲には、地形から旧河道が通っていたことが想定されている。調査地はこの旧河道の範囲に当っていると考えられる。このことから尾上構居跡の範囲は調査地まではのびていないのではないかと思われる。

トレンチ設定位置図



土層断面模式図



溝之口遺跡

調 査 地　加古川市加古川町美乃利４８４－５他

調査原因　個人住宅建設

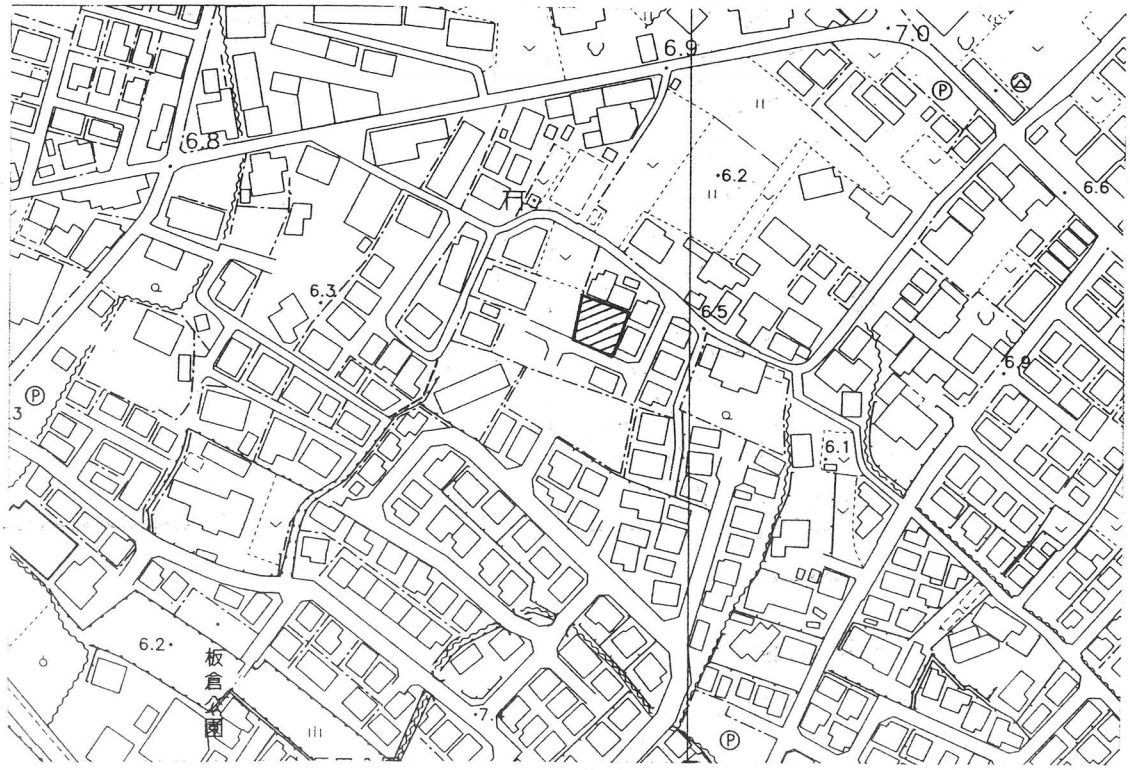
調査期間　平成１７年８月２５日

調査面積　４㎡

調査概要

溝之口遺跡は加古川市加古川町溝之口～美乃利の微高地上に所在する弥生時代から平安時代の遺跡である。今回、美乃利字鴫才の造成地において個人住宅の建設が予定された。そのため、加古川市教育委員会は開発業者と協議を行った。その結果、開発地内において遺構・遺物の有無を確認する必要があるため、確認調査を実施する事となった。

開発地内に調査区を１箇所設定して調査を実施した。調査区の大きさは３ｍ×２．５ｍで、７．５㎡の規模であるが、盛土層が深くなったため、壁面を傾斜さ



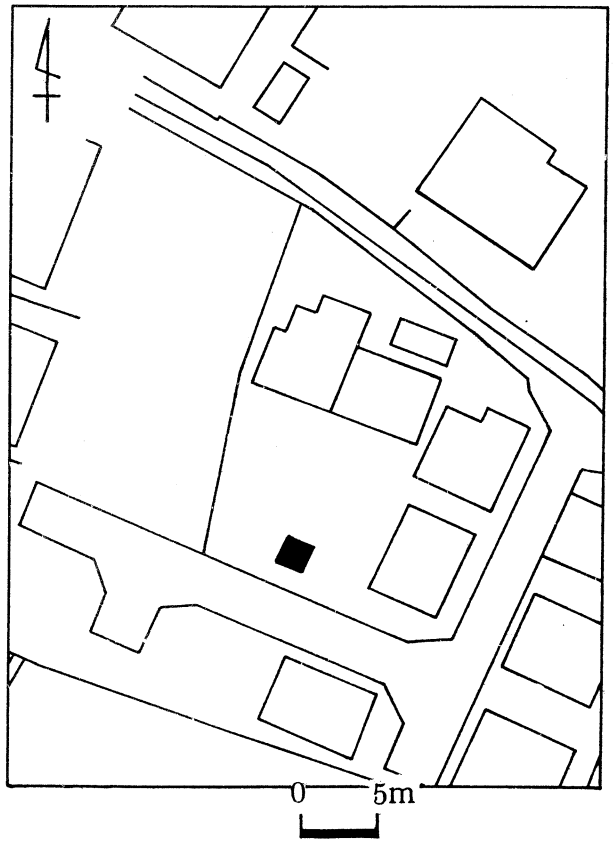
せ調査面では２ｍ×２ｍの規模となった。

基本層序は第１層現代盛土層、第２層黒褐色粘質土層、第３層淡黄色粘質土層、第４層黒灰色砂礫層となっていた。第２層黒褐色粘質土層は、土師器・須恵器の破片を含んでいたが、遺構は検出されなかった。第３層上面が遺構検出面である。

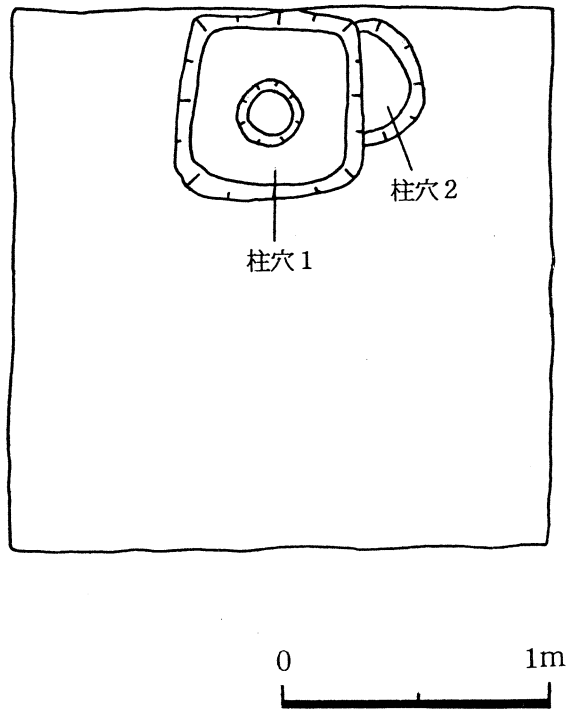
遺構は調査区内において、柱穴２基を検出した。柱穴１の掘方は平面隅丸方形を呈し、約７０ｃｍ×７０ｃｍの大きさである。埋土は淡黄色粘質土混じり黒褐色粘質土である。柱痕は径約２５ｃｍの円形で深さ約２５ｃｍである。遺物は土師器・須恵器の細片が数点出土した。溝之口遺跡の周辺の調査結果から奈良時代～平安時代前期頃の柱穴と思われる。

柱穴２は平面円形を呈し、約半分は柱穴１によって破壊されている。埋土は淡黄色粘質土混じり黒褐色粘質土である。

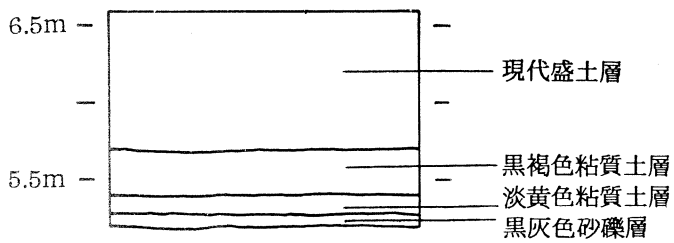
調査区設定位置図



遺構平面図



土層断面図



石守構居跡

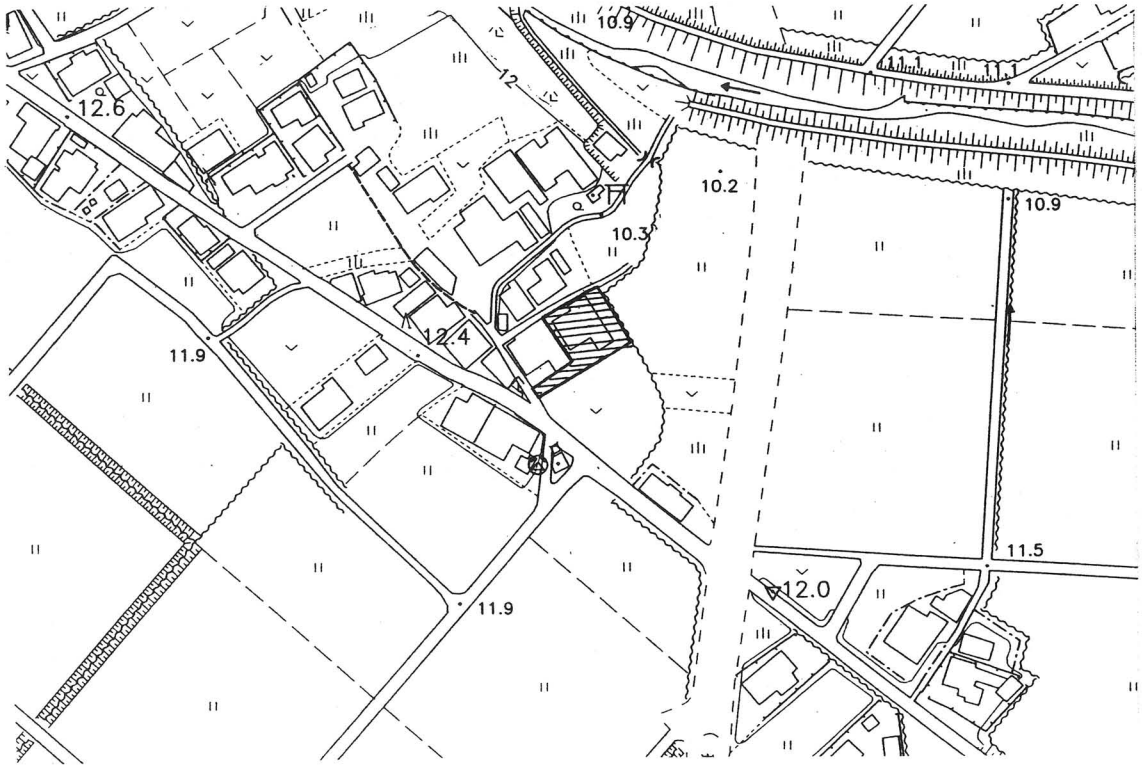
調 査 地 神野町石守９３１-１、９３１-３

調査原因 個人住宅建設

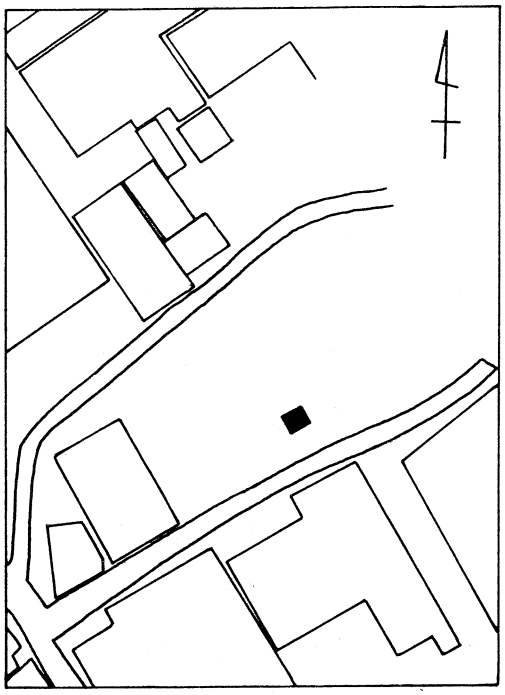
調査期間 平成１８年２月１０日～２月１１日

調査概要　石守構居跡は加古川の支流である曇川沿いに立地する城館跡である。城主中村新五郎重房は三木合戦の時別所長治の家臣であったが、その後、羽柴秀吉に従い因幡国攻めで討死したという。石守構居跡の範囲内において１戸建て住宅の建替えが予定されたため、開発業者と協議を行い、確認調査を実施することとした。

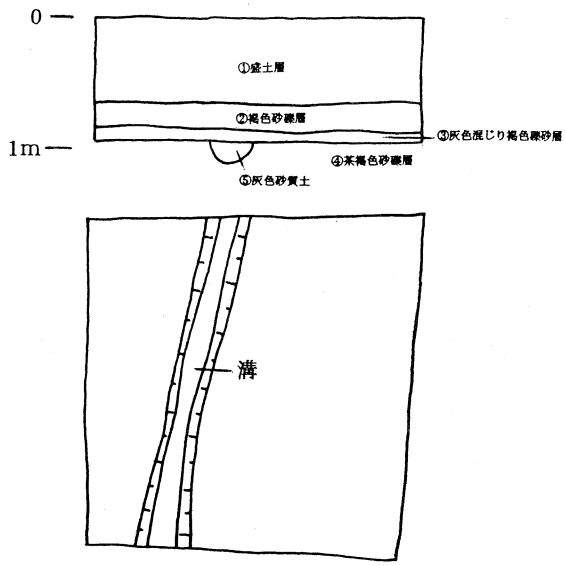
開発地内に調査区を１箇所設定して調査を実施した。調査区の規模は２ｍ×２ｍで４㎡である。基本層序は第１層現代盛土層、第２層褐色砂礫層、第３層灰色混じり褐色砂礫層、第４層茶褐色砂礫層となっていた。第４層が遺構検出面である。遺構は、溝１条を検出した。検出長約２ｍ、幅約２５ｃｍ、深さ約14ｃｍで、北東方向から南西方向に向かってのびていた。埋土は灰色砂質土である。埋土中には須恵器細片が含まれていた。



調査区設定位置図



遺構平面図・土層断面図



溝之口遺跡

調 査 地　加古川町溝之口４１-２、４１－４

調査原因　個人住宅建設

調査期間　平成１８年２月２８日～３月２日

調査概要　溝之口遺跡は、加古川左岸の沖積地の微高地上に位置する集落跡である。に加古川バイパス建設時に発見されて以来、加古川市教育委員会による開発に伴う調査が繰り返されている。今回の調査は、溝之口４１－２、４１－４番地の個人住宅開発に伴う確認調査である。

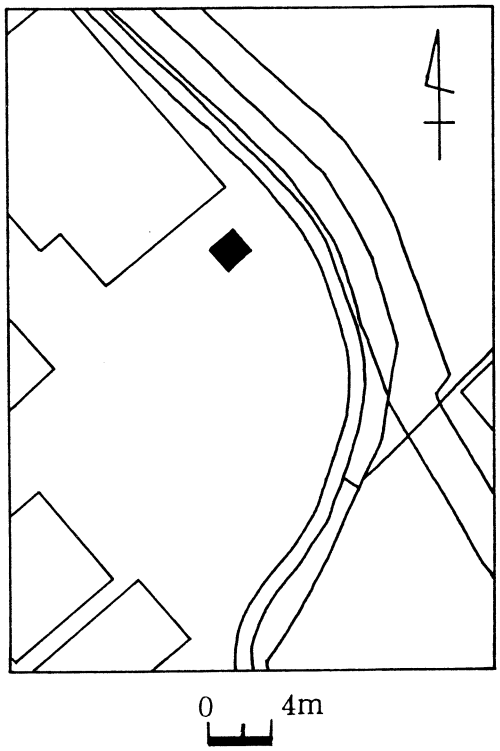
開発地内に調査区を一箇所設定して調査を行った。調査区は２ｍ×２ｍで、４㎡の規模である。基本層序は、第１層現代盛土層、第２層旧耕作土層、第３層浅黄色砂質土層、第４層黒褐色粘質土層、第５層淡黄色粘質土層となっていた。

第５層が遺構検出面である。確認調査のため、部分的な調査に留まり、遺構の全体的な広がりまではとらえられていない。検出された遺構は、検出長２ｍ、検出最大幅１．４ｍで深さが約６０ｃｍで、北東から南西方向に延びていた。溝などの一部を検

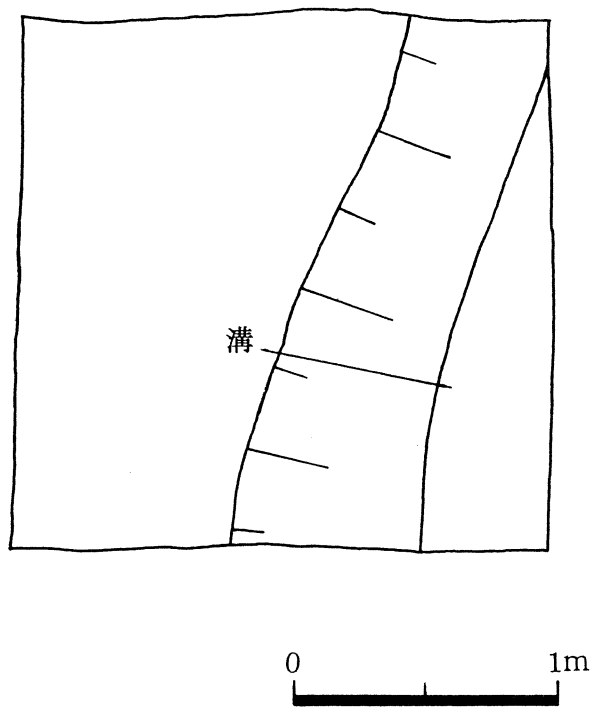
出したものと思われる。

埋土は第１層褐色粘質土層、第２層黒色粘質土層の２層に分けれられる。出土遺物は少なく、埋土中からは弥生土器の細片などが出土した。遺構面は現在の地表面から１・３ｍ下から検出されたため、開発に支障はないものと判断された。

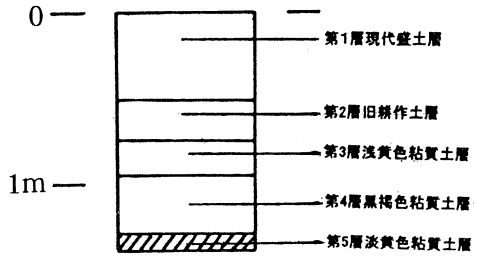
調査区設定位置図



遺構平面図



土層断面模式図



写　真　図　版

尾上構居跡第1トレンチ

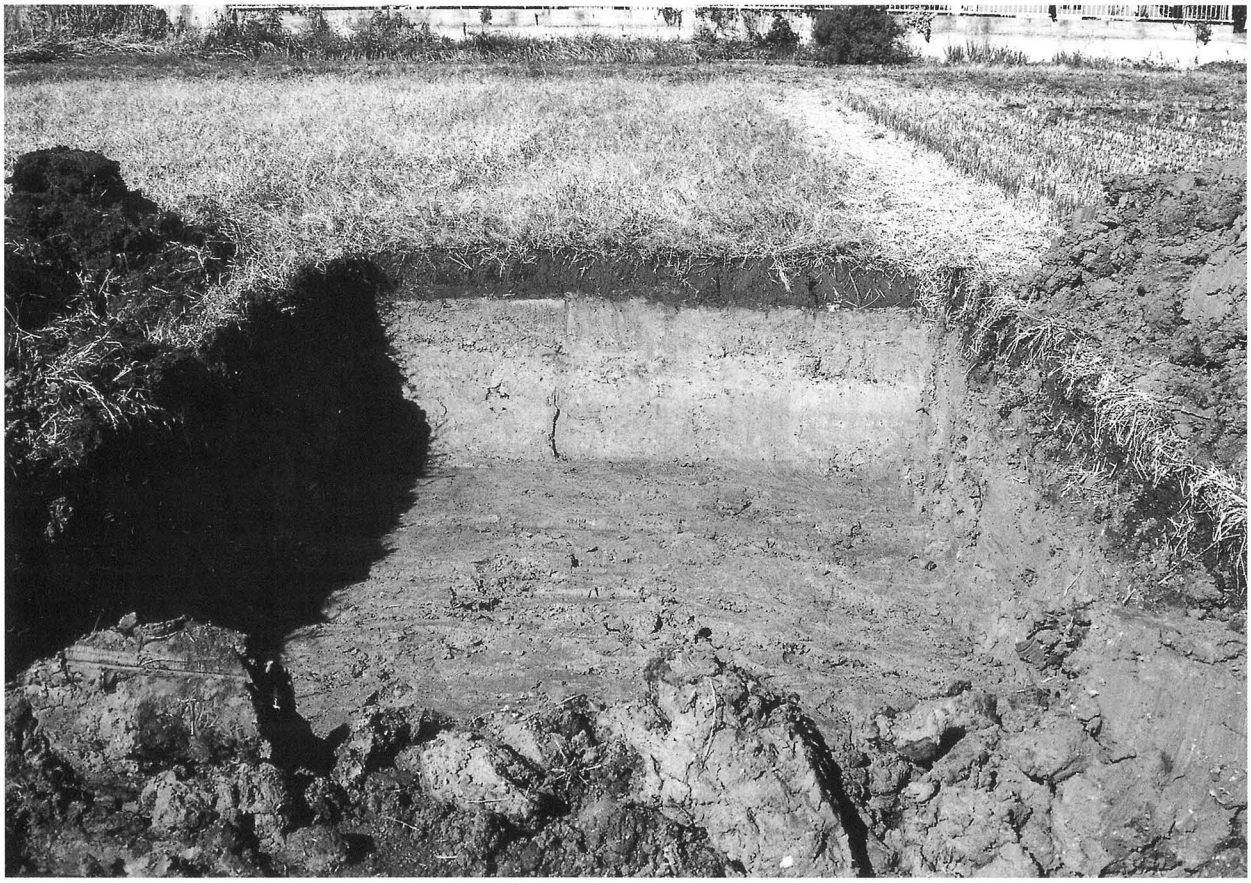
尾上構居跡第4トレンチ

宗佐構居跡

尾上遺跡第1トレンチ

尾上遺跡第2トレンチ

尾上遺跡第3トレンチ



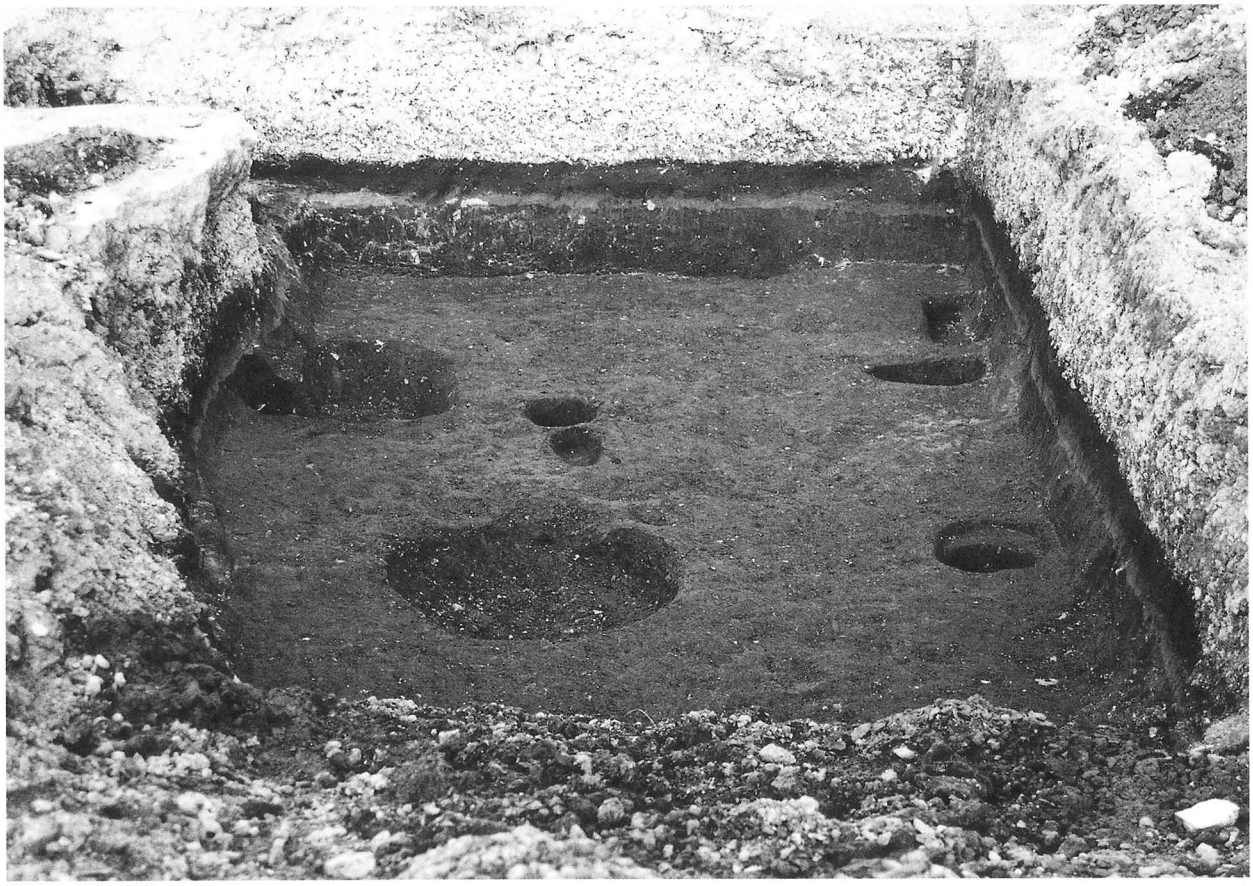
尾上遺跡第4トレンチ

尾上遺跡第5トレンチ

尾上遺跡第6トレンチ

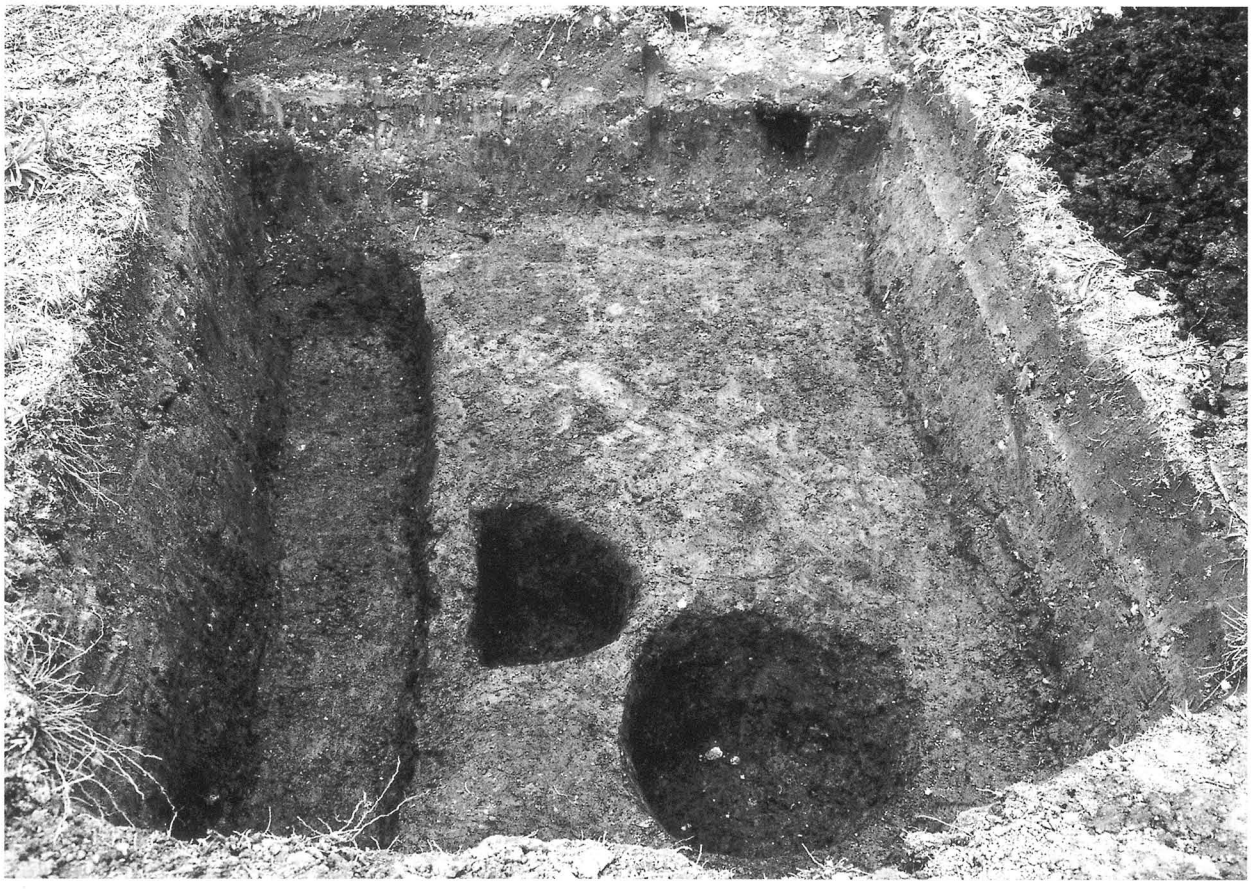
尾上遺跡第7トレンチ

尾上遺跡第8トレンチ



溝之口遺跡遺構完掘状況

今福遺跡



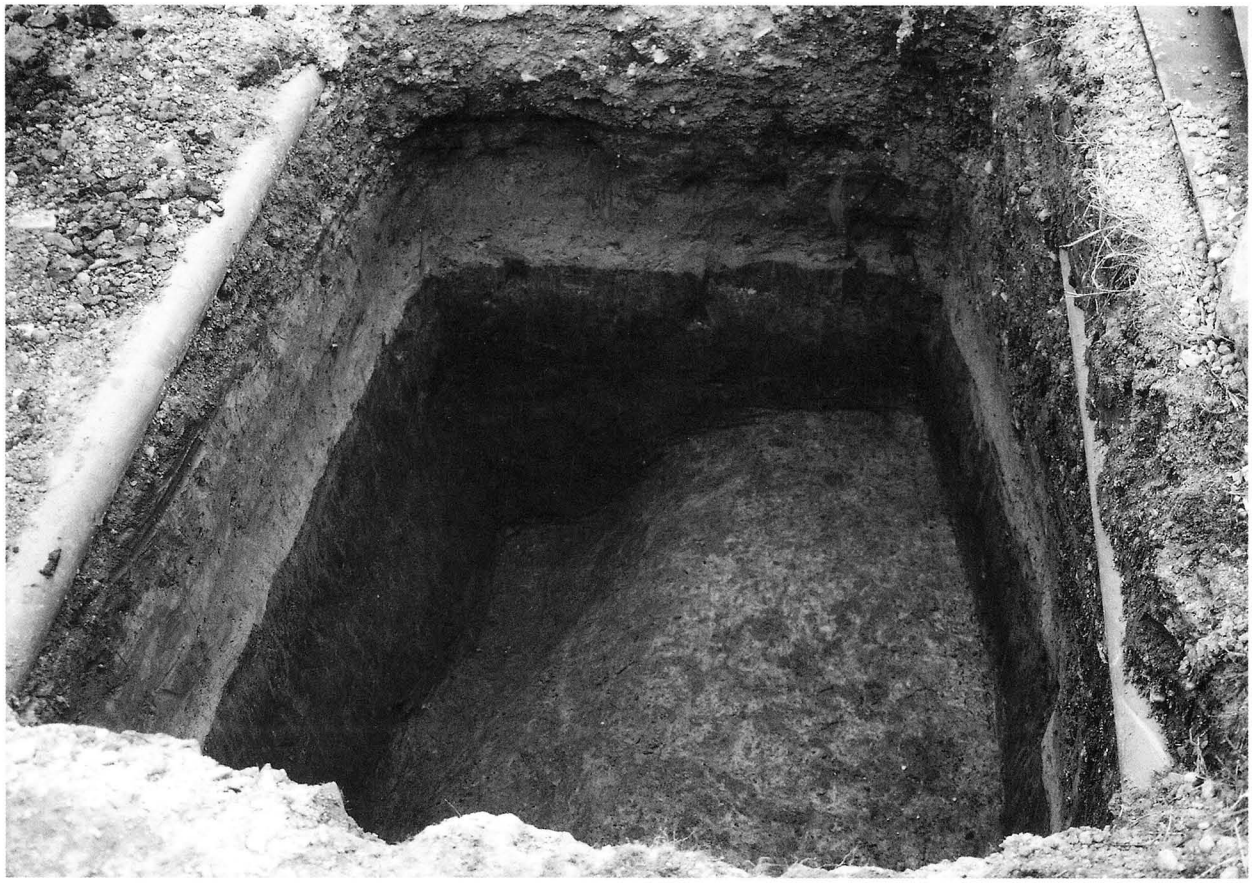
溝之口遺跡遺構完掘状況

尾上構居跡

溝之口遺跡柱穴

石守構居跡遺構検出状況

石守構居跡遺構掘削状況



溝之口遺跡遺構完掘状況

報告書抄録

ふりがな	かこがわしまいぞうぶんかざいしゅうほうさん
書名	加古川市埋蔵文化財集報Ⅲ
シリーズ名	加古川市文化財調査報告
シリーズ番号	２１
編集者名	西川英樹
編集機関	加古川市教育委員会文化財調査研究センター
所在地	〒６７５－０１０１加古川市平岡町新在家１２２４－７ ℡０７９-４２３-４０８８
発行年月日	２００７年3月２０日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村						
尾上構居跡	尾上町長田173他	28210		34°44′42″	134°49′33″	H16.1.20～26	174㎡	分譲住宅建設
宗佐構居跡	八幡町宗佐183-2	28210		34°47′38″	134°55′17″	H16.10.18～21	20㎡	個人住宅建設
尾上遺跡	尾上町安田574	28210		34°44′52″	134°49′48″	H16.11.10～16	100㎡	分譲住宅建設
溝之口遺跡	加古川町溝之口30-4	28210		34°45′56″	134°50′54″	H16.12.21～27	13㎡	個人住宅
今福遺跡	尾上町今福352-3	28210		34°45′2″	134°49′27″	H17.4.4～5	20㎡	分譲住宅
溝之口遺跡	加古川町溝之口54-5	28210		34°45′53″	134°50′53″	H17.4.6	4㎡	分譲住宅
尾上構居跡	尾上町長田331-1	28210		34°44′45″	134°49′22″	H17.6.29～30	8㎡	個人住宅
溝之口遺跡	加古川町美乃利484-5他	28210		34°46′3″	134°51′6″	H17.8.25	4㎡	個人住宅
石守構居跡	神野町石守931-1他	28210		34°46′51″	134°52′19″	H18.2.10～11	4㎡	個人住宅
溝之口遺跡	加古川町溝之口41-2他	28210		34°45′55″	134°50′59″	H18.2.28～3.2	4㎡	個人住宅

加古川市文化財調査報告２１

加古川市埋蔵文化財集報Ⅲ

発行　加古川市教育委員会

編集　文化財調査研究センター

加古川市平岡町新在家 1224-7 TEL079-423-4088

印刷　稲垣印刷

加古川市野口町古大内 451-1　TEL079-426-6653

平成 19 年 3 月 20 日 発行